



写真-1 上岸地橋から上流を撮影（令和3年4月）

■ 「灘五郷」のひとつ「西郷」を流れる西郷川

写真-1 は、阪急電鉄・王子公園駅の東を流れる西郷川（にしごうがわ）を、山手幹線・上岸地橋（かみきしちばし）から撮ったものです。駅の北西には王子動物園や王子公園があります。河川名は、「灘五郷」の一つ「西郷※¹」に由来しますが、西郷川流域に酒造会社はなく、「西郷」にある酒造会社の「沢の鶴」は都賀川の右岸、「金盃酒造」は都賀川の左岸にあります。

また、「西郷」の名がつく施設に西郷小学校がありますが、これも都賀川の下流部左岸側にあります。



写真-2 阪神電鉄の下流を流れる西郷川



写真-3 青谷橋から上流を撮影

※1 西郷：日本で日本酒生産量が最も多い地域である兵庫県の灘一帯にある 5 つの酒造地を総称して「灘五郷」といい、西郷、御影郷、魚崎郷（以上神戸市）、西宮郷、今津郷（以上西宮市）を指す。「灘五郷」という名称は江戸時代後期に生まれているが、範囲については変遷があり、現代の「灘五郷」の枠組みは明治期以降のものである。西郷は神戸市灘区新在家・大石地区にあり、都賀川河口部に位置する。蔵元は、震災の影響もあって沢の鶴と金盃酒造の 2 社があるのみ。

■ 西郷川、別名青谷川、味泥川

『神戸市水害誌』によると、「西郷川は岩屋・原田両村の立会山であった青ヶ谷山に源を発し、西郷町※2（にしごうちょう）で海に注いでいて、流路延長 3.2km、流域面積 4.9km² を有す。本流は青ヶ谷より出するをもって青谷川と呼ばれ、西郷町で海に入るから西郷川の名もあり、味泥村（みどろむら）を経るから味泥川ともいわれる」とあり、国土地理院の地図でも平野部は「西郷川」、山間部は「青谷川」と表示しています。筆者も、西郷川より青谷川の方が馴染みがあるのですが、では実態はどうなのか。

川に架かる橋の橋名板には、橋名とともに河川名が記されているので、西郷川に架かる橋を調べてみると、上流の青谷橋だけが「青谷川」となっていて、それより下流の橋はすべて「西郷川」と記されていました。ただ、阪急電鉄神戸線から上流・上野橋までの左岸側にある公園の名称は「青谷川公園」です。

青谷川と西郷川の呼び名の境界は明確ではありませんが、法定河川の名称は西郷川で統一されています。

王子公園付近の西郷川は、昔は川幅 4～5 間（≒7.3～9.1m）ほどありましたが、阪急電鉄開通前の大正 6、7 年（1917,18）頃、同電鉄の買収の手がのびた頃から家が建ち並びはじめ、川の兩岸の土地所有者が競うように石垣を築いたりして川幅が一間（≒1.8m）あまりに、バス道から上ではわずか 5 尺（≒1.5m）くらいに狭められ、とても川とは呼べず、むしろ下水道と呼ぶ方がふさわしい有様でした。

西郷川の流域においては、正徳 2（1712）年 7 月 2 日・寛保 2（1742）年 6 月 3 日・慶応 2（1866）年 8 月 16 日の洪水が記録されていますが、中でも正徳の水害は、阪神大水害を彷彿させるものがあります。

五毛村の正徳 2（1712）年 7 月 3 日の記録によると、「夜前の洪水に田地 4 反 3 畝余に砂石流れ込み、池 4 ヶ所が山崩れで埋まる、御林の内 18 ヶ所で山崩れ、井手（井堰）は残らず落ちてしまった」とあります。この水害は東は尼崎武庫川、西は生田川の各決壊を記録していることから、おそらく西郷川流域にもかなりの惨害が発生したと考えられます。



図-1 西郷川流域図

※2 西郷町：大正 3（1914）年 7 月 1 日、武庫郡都賀浜村が町制施行・改称して西郷町となる。昭和 4（1929）年 4 月 1 日、西郷村・六甲村とともに神戸市へ編入され消滅。

■ 阪神大水害における西郷川の惨状～神戸市復興部長 富田恵四郎氏の回想

昭和 13 (1938) 年 7 月 5 日に発生した阪神大水害は、西郷川流域においても大きな爪痕を残しています。その惨状について、昭和 14 (1939) 年 6 月 16 日から 29 日に神戸新聞に連載された神戸市復興部長・富田恵四郎氏の回想記事(「神戸大学経済経営研究所 新聞記事文庫」に収蔵)から、西郷川関連の部分を抜粋して掲載します。(一部現代文に書き換え若干の加筆修正をし、読みやすくしています)

都賀川より西において予想外の災害を受けたものに観音寺川、青谷川がある。この 2 河川は付近の人々でさえあんな川があったのかと思われるような極めて小さい溝川であって、平素は全く水の枯れた川であるが、急激に雨量が増すと時として溢れることも 3 年に一度位はあったと思う。

神戸市の表六甲地域は南北に急勾配であり、かつ山と海岸の距離が近いために豪雨が降ると一時に出水し、雨が止んで 30 分も経つとケロリと水が引いてしまう。全く他の都市には見られぬ性状を持っている川が多い。

この青谷川および観音寺川もこの例に漏れず降り続いた豪雨により、溪谷で発生した土砂崩れにより流出した土砂や立木が両岸一面に櫛比(しっぴ:櫛の歯のように隙間なく並んでいる様)する家屋を一呑みにし、殊に観音寺川においては湊川高等実業女学校^{※3}(現・湊川短期大学:三田市四ツ辻)の校舎一棟が一時に倒壊し教員 2 名、生徒 8 名の生命を奪い去ったのである。

青谷川は下流に行くとき西郷川と名称が変わっているが、この川一帯の被害は土砂よりも主として石であったことである。一面が何千貫(1 貫=3.75kg)という石で埋め尽くされたため河水を調整するのに非常に苦心を重ねたが、流れ出た石を利用しこれを割って、底張から堤防の造築等を終えたのである。現在これら両河川は全く当時の姿より面目を一新し、バス道には木橋ではあるが相当立派な橋梁を架設し、沿川の民家も全部復旧し当時を想起させる形跡はなく、ただ中島橋(中原橋では?)の上流空地に所々転がっている大きな石だけが当時をしのばせる。

流出土砂および浸水被害を調べてみると、青谷川沿川の浸水面積は 472,000m²に達し、堆積土砂量 26,100m³、堆積区域は川を中心として東寄りに 184,000m²である。観音寺川の方は浸水面積 364,000m²、堆積土砂量 19,200m³、堆積区域は川を中心として東寄りに 168,400m²に及んでいる。

写真-4 は西郷川下流の国鉄(現・JR)付近の惨状です。人々は天井裏から屋根を破り辛うじて脱出しています。



写真-4 西郷川下流国鉄付近の惨状
(『写真集 神戸 100 年』から引用)



写真-5 灘区中原通王子町付近の被災状況
(阪神大水害デジタルアーカイブから引用)

※3 湊川高等実業女学校:大正 8 (1919) 年、幸田たまが、神戸市兵庫区石井町の湊川の畔に裁縫女塾を開設。大正 11 (1922) 年神戸市灘区福住通に湊川高等女子職業高校として新校舎を建設・移転する運びとなるも、台風のため上棟式直前に倒壊。昭和 5 (1930) 年湊川高等実業女学校に改称。昭和 31 (1956) 年、三田市四ツ辻の新校舎に移転。平成 15 (2003) 年、湊川短期大学に改称。

■ 西郷川の復興計画案

西郷川は、特に緊急の整備を要する河川(甲河川)14 河川の一つで、国直轄工事として施工されました。改修区間は、青谷分譲地上流の妙光院前から河口までの 2.75km です。川幅がきわめて狭小で市街地において流路が屈曲しているため、川幅を 2 倍に拡大して法線を滑らかにし、急勾配であることから河床はすべて石張りとし、かつ相当の落差を持つ床止工を連続的に設けて河床勾配を緩やかにする。

以上のような方針のもとに昭和 14 (1939) 年から改修が行われています。

■ 放水路の整備

人家連担により現川拡幅が難しい観音寺川は放水路を設けることとして、昭和 61（1986）年度に都市基盤河川改修事業に採択されました。平成 12（2000）年にトンネル放水路工事に着手し、平成 14（2002）年に完成しています。

さらに、平成 19（2007）年には下流（JR 摩耶駅付近）放水路が完成しています。写真-6・7 は、観音寺川放水路の呑口と吐口です。



写真-6 観音寺川放水路呑口



写真-7 観音寺川放水路吐口（天城橋から撮影）

■ 六甲の山麓線に沿って諏訪山断層が

図-1 の地形図を見ると、都賀川上流から西郷川上流を経て鯉川に至る六甲の山麓線が北東―南西の方向に一直線に伸びているのがわかります。このリニアメント（線状模様）が諏訪山断層（右横すれの活断層）で、生田川上流において新幹線・新神戸駅を通過しています。昭和 45（1970）年、新神戸駅の基礎工事現場において諏訪山断層の断層露頭が見つかり、駅構内をとる断層の影響を重くみた国鉄では、急きょ鉄道技術研究所の技術陣を派遣するとともに、六甲山地の地質の権威である大阪市立大学の故・藤田和夫教授らと現地でその対応策を練りました。その結果、断層運動により変位が生じても支障を来たさないように、断層上の建物が両側の建物と別々に動くように設計変更をしています。

また、諏訪山断層が通る六甲山麓には、典型的な断層地形の一つである「三角末端面」が連続して見られます。諏訪山断層は、北東から南西の方向に伸びるセンスを持ち、山麓部において断層崖を形成しています。また、この断層は衝上断層で、山側の花崗岩体が南の市街地にのしかかるように上昇していますが、現在見ている斜面は傾斜の向きが逆です。なぜでしょう。それは、断層崖の高度差は断層運動の積み重ねによってつくられるものですが、斜面そのものは、山地が今の高度をとるまでの上昇の過程で受ける侵食作用によってつくられるものだからです。

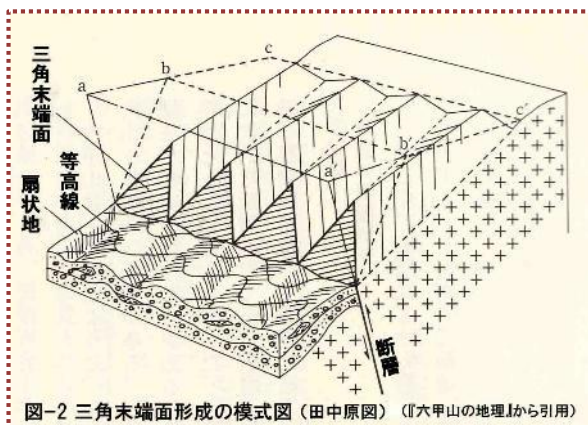


図-2 三角末端面形成の模式図



写真-8 六甲山麓に見られる諏訪山断層の三角末端面

図-2 において、鎖線 a-a' と山麓線との間に示される斜面は、山側が衝き上げられて高くなる際にまったく削剥を受けない場合の想定上の断層崖で、点線 b-b' と山麓線との間の斜面は上昇の過程で侵食作用を受けてつくられたものを示しています。加えて、その斜面もこの断層崖上を流れる水によって侵食され、谷が形成されます。そして、当初形成された断層崖斜面は、それらの水流沿いに侵食を受け、いくつかの山脚に細分されます。

一方、開析された物質は斜面下に運ばれ、扇状地が形成されます。開析された斜面の末端では図-2のような三角形の斜面となり、それが山麓線に沿って並んで発達します。このような斜面を三角末端面といい、断層地形の典型的なものの一つです。

写真-8 は、神戸市役所 1 号館 24 階の展望ロビーから撮影した諏訪山断層の三角末端面です。

■ モノローグ

諏訪山断層の三角末端面は、県庁舎からでも見ることができます。窓から見える六甲の山並みの中から三角末端面を見つけて、悠久の大地の営みを想像してください。いい気分転換になると思います。

ところで、今回のテーマである「西郷川」の読みですが、神戸市のホームページ^{※4}や Wikipedia には「さいごうがわ」との読みが付されています。一方、『新修神戸市史 行政編Ⅲ 都市の整備』の P.159 では、西郷川に「にしごう」の読みが付されています。

いずれが正しいのでしょうか。

まず、河川法では、二級河川の指定は第 5 条により河川管理者である知事が行うことになっていて、河川指定する場合はその名称及び区間を公示しなければなりません。西郷川も告示行為がなされていますが、ただその中に読みは記されていません。なので河川法で規定された「読み」というのはないということです。

公益社団法人日本河川協会の HP 中の「川の Q & A」において、「川の名前は、いつ誰がつけたのですか？」といった質問があり、これに対して、「河川の名称の由来は、地域の名称も地図上と地元の方々が普段呼んでいる地名とが違ふのと同じように、すべてが確定しているわけではありません」との回答がなされています。ただ、国土交通省の HP を見ると、一級水系の読みは整理されているようです。

川は、河川法が制定される遥か昔から地域で呼ばれていた呼び方があり、通常はその読み方が踏襲されるものと思われませんが、ただ昔は地先それぞれに河川の呼び方があったので、そこは統一する必要があります。

「西郷川」は、灘五郷の「西郷」が由来であること、『新修神戸市史』のような信頼度の高い文献に記載されている読みが「にしごうがわ」であることから、「にしごうがわ」と読むのが正解だと思います。

実は、西郷川以外にも読みに疑義がある河川がいくつかあります。国土交通省が一級水系の読みを整理しているように、この際兵庫県も二級河川の読みおよび由来を整理してはいかがですか。

- ・加工川水系 美嚢川（みのがわ）
- ・加古川水系 宮田川（みやだがわ）：丹波篠山市の宮田（みやだ）地区を流れる川

※4 神戸市のホームページ：「灘百選～青谷川・西郷川」において、「灘五郷の西郷は「ニシゴウ」と呼ばれていますが、川は「サイゴウガワ」と呼ばれます。」とある。

<https://www.city.kobe.lg.jp/c63604/kuyakusho/nadaku/shokai/miryoku/hyakusen/hyakusennkawaa.html>

オオキバナカタバミ（大黄花片喰）

カタバミ科カタバミ属の多年草で南アフリカ原産。別名「キイロハナカタバミ」とも呼ばれる。日本では 1890 年代に観賞用に輸入されたものが野外に逸出し、帰化植物となって分布を拡大している。花期は 3～5 月頃で、鮮やかな黄色の花を多数咲かせる。葉に紫褐色の斑点が多数見られることで他のカタバミと識別できる。家畜にとっては有毒であり、乳牛が誤食した場合牛乳の乳脂肪量が低下する。王子動物園の東を流れる西郷川沿いに咲いていた。



写真-9 オオキバナカタバミ

【参考資料】

- 1 『新修神戸市史・行政篇Ⅲ 都市の整備』 神戸市 平成 17 年 3 月
- 2 『神戸市水害史』 神戸市役所 昭和 14 年 7 月
- 3 『西郷川水系河川整備基本方針』 兵庫県 平成 30 年 9 月
- 4 『沿革』 湊川短期大学 HP
- 5 『六甲山の地理』 田中真吾編著・阪神大水害 50 周年事業実行委員会監修 昭和 63 年 7 月
- 6 『神戸の自然シリーズ1：六甲の断層をさぐる』 神戸市立教育研究所 昭和 54 年 3 月
- 7 『川のQ&A』 公益社団法人日本河川協会 HP
https://www.japanriver.or.jp/park/qa/q_28.htm
- 8 『灘五郷、西郷町、オオキバナカタバミ』 フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

※発行：令和 4 (2022) 年 5 月 『ひょうご水百景』 No.149

改訂：令和 8 (2026) 年 7 月 『ひょうご水百景』 No.149